

# ねいの里 ホオホオニュース



## ねいの里の中型哺乳類

ねいの里のフィールドは四季を通じ、野鳥をはじめ貴重な野生動物や植物が観察できることで多くの県民に親しまれています。けれど、キツネとタヌキの「化かしあい」などと、ことわざにも出てきて、以前は襟巻きなどに利用された中型哺乳類二種もテリトリーの一部として利用していることはあまり話題になりません。夜行性で警戒心が強く昼間あまり姿を見せないこと、イメージもいまひとつといったことも関係していると思われます。

今年は超暖冬でしたがそれでも薄く積もった雪上には夜に活動したであろう異なった痕跡が幾つも残されています。色々複雑な動きが読み取れ、交差した足跡もみられます。「はちあわせ」したときなどはどう折り合いをつけているのか推測してみるのもおもしろいものです。

最近では日中も事務所前をトロット(小走り)で横切るキツネや餌探しに夢中のタヌキを時折見かけるようになりました。園内では、他にノウサギ・ハクビシンなど野生動物の足跡も見られますが、彼らはなかなか写真のモデルにはなってくれません。

## ホクリクサンショウウオ応援団

今年も2月にホクリクサンショウウオの産卵を確認。ねいの里では1985年に保護増殖池「サンショウウオの託児所」を設置して以来、ホクリクサンショウウオを応援するために様々な工夫を行い、2001年には81双の産卵を確認しました。まず第一に緩やかな流れのある水辺環境の維持。次に成体が安全に水辺におとずれることができるよう木道を設置。そして近年、水中で天敵となる生き物を取り除き侵入を防ぐ取組みをしています。特にヤンマ類などトンボの

オニヤンマのヤゴ



ヤゴは、幼生を食べてしまうだけでなく成体を襲うこともある大敵。2005年には第1・2託児所で計107匹のヤゴを取り除きました。トンボさん、どうか産卵は別の池でお願いします!

## 吉住窯のひとり言 僕、吉住窯がお伝えします! 連載 - 2

### II. 窯の中で何が起きているのか

炭焼きの歴史は大変古く、日本では一万年ほど前の縄文時代には既に日常生活に取り入れられていたようです。炭窯を築いて炭を焼く技術は中国から伝わったようですが、当時にとっては素晴らしい技術であったと考えられます。僕は、その技術をしっかりと伝承するために、炭窯の中で何が起きているかを科学してみました。



炭の原料は、一般的にコナラやクスギ、アカマツなどですが、木材や竹であればほとんどは炭になるそうです。最近ではバラの花やマツボックリなども装飾用として焼かれています。炭焼き窯に入れられた炭の材料である木材は、燃やさないように酸素を極力遮断して熱を加えられ、温度上昇が進むと木質の成分であるセルローズやリグニンが自分自身で熱を出して分解し炭に変わって行きます。

セルローズの木材に含まれる割合は、樹種により幾分違いはありますが大よそ50%、セルローズより低温で分解するヘミセルローズが20~30%、逆に高い温度で分解するリグニンが20~30%で、バラバラに熱分解し飛び出したものは木酢液になり、飛び出さなかった成分が炭を形成する炭素成分です。それぞれの成分は何れも単一の純物質でなく、樹種によって分子の大きさが異なり、さまざまな熱分解成分ができるので、木酢液も大変多くの成分を含むことになります。

## 活動ふりかえり

### 新春おぞうに会・いろいろ開き (平成19年1月6日)

積雪なく新年を迎え、「春の七草」頒布も大好評。炭焼き小屋では、会員で作った特製お雑煮をいただきいろいろ開きをしました。いろいろを囲んで食べる食事は格別の味! これからもいろいろを囲んだ里山談義を重ね、にぎやかな活動をしていきましょう。

### 木の実でつくるねいの里の仲間

講師 満保清憲氏(平成19年2月3日)

参加者はおよそ20名、フクロウやリス、タヌキなどねいの里に生息する生き物を中心に、子供だけでなく大人まで夢中!! 楽しくあたたかな時間となりました。たくさんの仲間が出来上がり、冬のねいの里がにぎやかになりました。



### かたかごの丘を整備 (平成19年2月17日・3月3日)

植林を行う自生地の所有者から、カタクリ保全のためにと球根の提供がありました。会員の参加で、ササやクズが繁茂していた場所を整備し、球根の植えつけを行いました。この先、春の里山をいろいろの丘となる様子を皆で見守って行きましょう。



ねいの里の自然に親しみ、年間を通じて活動する塾の会などの方々を紹介するコーナー

### 「音川小学校」

地元音川小学校の4年生が、年間を通しねいの里の自然の中で里山教室を行っています。今年も「植物」「鳥」「いきもの」の3つの班で活動を行いました。一年を通し、季節の変化を感じながらの自然体験は心と体を育てる大切な時間となっています。活動の後、生徒達はテーマごとに学習した事を発表しました。活動の感想を紹介します。



1月かんじきの履き方を習いました。かんじきは自然のものを使ってできたもので、昔の人の知恵はすごいなあと思いました。自分で縄をしばったり中へ通したり、説明を聞いて履けるようになりました。

鳥の見分け方がわかりました。ヤマガラは茶色いエプロンでシジューカラは帽子にネクタイです。



薬になる植物で、オオバコやクズ・ホオノキ・キノコなどを調べました。

11月に渡り鳥の勉強とあわせ巣箱かけをおこないました(左写真)。巣箱のヒナは、ヘビやカラスなどに狙われるそうです。でも「ヘビ返し」という道具をまきつければヘビはよってこないそうです。こんな道具があるなんてびっくりしました。

# 自然塾の会

(ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

毎月第1土曜日が活動日です。

参加予約はいりません。お気軽にねいの里へお越しください！

(都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)

昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんでいただきます。

## 4月7日(土)

○ 午前10時～11時半

「カタクリとギフチョウのウォッチング」

ーねいの里の春を満喫しようー

ナチュラリスト石動さん・長谷川さんを講師に、リニューアルした展示館や春の自然観察を行います(自然とのふれあい教室)。

参加無料/定員30名・要申込み

## 5月5日(土)

○ 午前9時「新緑の森をあるこう」

古洞の森駐車場(ダム横)集合

古洞の森からねいの里までおよそ6キロ。鳥のさえずりや新緑の風を感じて歩きましょう。

(ドライバーの方を集合場所へ送ります。人数把握のため、参加者はねいの里内事務局へ連絡ください。)

○午後2時頃解散(予定)

参加無料/要申込み

■ 塾の会写真展開催中!(3月31日まで)。塾の会の皆さんの作品20点を展示しています。

■ 新年度の会員継続手続きをお願いしています(詳細は別紙)。

■ 塾の会紹介コーナー作成作業お手伝いを募集しています。

写真・データなどをお持ちください。

## 入居者募集中～バードマンション

ねいの里に20室あるバードマンション。

敷金・礼金、家賃も不要!

子育てに適した快適なお部屋をご用意しています!

## ねいの里行事案内

お電話でお申込みください。

詳細はHPで紹介しています。



### ねいの里展示館がリニューアル!!

テーマは「野生動物との共生」

身近な環境のこと、生き物や自然が私たちに伝えているメッセージをねいの里から発信します。

■ 3月24日10時より

リニューアルオープンセレモニーを行います。

参加大歓迎です。ぜひご来館ください!

4月22日(日)

9:30～13:00【ねいの里】

### たのしいクマ学「春編」

～これから山に入る人のために～

散策や山菜取りのシーズンです。春山に入る前に、生き物や自然に対するマナーを塾長が楽しくわかりやすくお話しします。

### 生き物観察とビオトープづくり

自然観察や軽作業を予定しています。

# ふくろう通信

第4号

2007年3月18日

生き物ふれあい自然塾



今日のふくろう先生

満保 清憲 先生

## 里山のたのしさ

最近里山という言葉が日常的に話されるようになりました。そして里山を再生しよう活用しよう積極的に取り組まれています。そんな里山について小生の幼な頃の里山を思い出してみたいと思います。

私にはその頃里山という言葉に聞き覚えがないのです。これが今の里山にあたるのでしょうか。当時の家の手伝いはきまって裏山から薪・すんばを運び出す、また草刈など苦しい記憶がのこっています。また楽しく遊んだ思い出も多くあります。

例えば、スギ鉄砲(鉄砲)です。その玉がスギの実。たわわに実った枝を取り、これを持ち鉄砲につめこむ。うまく飛ばなければ口に含みぬらして詰める。花粉症の人が聞けば、がまんできないでしょう。このおかげかどうか定かでないが、この年になっても花粉症になりません。

その他、沢や谷では、魚・虫類など捕まえてもて遊んだものです。傷をして帰れば、親が葉を揉んで傷口に貼ってくれる。その時教えられ、次に傷をしても自分で手当てをしたものです。

このように自然に教えこまれ身につけていった思い出はつきません。さて、今この里山ではどんな遊びができるのでしょうか。十分すぎるほど、楽しい遊び道具はあちこちに点在しています。例えばロープを一本持ち込むことで遊ぶことができます。木と木の間にロープを渡し谷渡りあそび、枝からロープを登らせ競い合う。また、季節に応じ、木の実・枝葉を使って、おなじみのクラフト作り。これを使いながら学べます。コナラのドングリの形は一定ではなく、何種類もの形があります。集めるのもまた楽しいのです。

このようにねいの里のような里山では、いろいろな遊びを通し自然を学び、そして活かすことが自ずから湧きでてくるのです。里山の恵みを暮らしの中に存分に取り入れることで、里山が恵みの山として光りはじめるとはならないでしょうか。

## 自然情報

(ねいの里のみどころ4月・5月)

ヤマガラ	ギフチョウ	トキワイカリソウ
巣箱に、巣材やえさを運ぶようすが観察できます。	カタクリやショウジョウバカマに吸蜜におとずれます。	船の碇に似た花をつけます。温暖地では紅紫色の花。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内

Tel 076-469-5252 / メールアドレス [shizen@toyamap.or.jp](mailto:shizen@toyamap.or.jp)

ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>